雪

津村信夫

青空文庫

目次

序 3
万葉歌のツチハリ 3
万葉集スガノミの新考 5
万葉歌の山ヂサ新考 10
万葉集巻一の草木解釈 16
カキツバタ一家言 24
ブドウ（葡萄） 29
彼岸ザクラ 31
蓮の話・双頭蓮と蓮の曼陀羅 34
満洲国皇室の御紋章と蘭 40
竹の花 42
荒川堤の桜の名所を如何にすべきか 49
ススキ談義 51
松竹梅 55
春の七草 57
スミレ講釈 62
ツバキ、サザンカ並にトウツバキ 68
年首用の植物 73
植物学訳語の二、三（上） 75
植物学訳語の二、三（下） 78

信州はお隣りの越後の国にくらべると、あまり雪の多いところではありません。それでゐて、寒いことは、たいへんさむいのです。

雪がすくないといつても、もちろん平地よりはずつとたくさん降りますし、同じ信州でも、飯山（いひやま）などといふ越後にちかいところや、一茶の住んでゐた柏原や、又戸隠地方のやうな山地にゆくと、ずゐぶん、どつさり積るのです。

善光寺平の雪は、精々一尺くらゐ積れば多い方ですが、そのかはり、一度積つた雪はもう中々とけないのです。さうして、その上に、そのうへにと新らしい雪が降るのです。道の上などは、堅くかたく、まるで氷でも張つたやうになるのです。これを根雪といひますよ。

堅い雪は又時々悪さをするものです。この間も、私の知り合ひのある老婆が、夕方買物に出かけて、道をあるいてゐると、この氷のやうな雪の上で、つい足をすべらせてしまひました。さうして老婆は腰のあたりを、ひどくうつたのです。

「あゝ、ほんとに魂消（たまげ）えやした、雪も、どうして馬鹿にならない」

この勝気なおばあさんは、さういつて、こぼしてゐましたが、まる一月くらゐは動けなかつたといふことです。

年寄だけではありません、若いものでも時々しくじることがあるのです。一と冬の間には、かならず、何人かの人がころんだりして、ひどい怪我をするのです。

あなた方は、雪崩（なだれ）といふものを知つてゐますか。山地にゆくと、雪崩といふ恐ろしいものがあるのですよ。山の崖になつたやうなところに、高く積つた雪が、一度にどつと押しながされてくることです。雪崩は人の家を埋め、人をも生き埋めにしたり、押しつぶしたりするものですが、町中にゐても、雪といふものは中々こはいものですね。

自然の中に暮してゐる人々は、自然のお蔭で、色々の楽しみを持つことも出来ますが、又はげしい自然と、一と冬の間、こんなふうに戦はねばならないのです。

しかしながら、雪といへば、こんな便利なこともありました。

私が長野の町の小さな病院で、熱のある患者の看病をしてゐる時でした。東京へんだと熱のある場合、病人の頭や胴をひやすには、きまつて、氷をつかひますね、ところが、信州では氷の袋はつかひますが、中に入れるのは、氷ではなくて、雪なのです。あの堅いかたい雪なのです。

一々氷屋をよばなくとも、冬であれば病院の庭にでも、どこの空地にでも、雪のないことは珍らしいからです。

小さな病院の庭が、この雪を掘る人々で、にぎはふ光景を、私も日にいくどか眺めました。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆51　雪」作品社
　　1987（昭和62）年4月25日第1刷発行
底本の親本：「津村信夫全集　第二巻」角川書店
　　1974（昭和49）年11月
入力：向山きよみ
校正：noriko saito
2010年7月18日作成
2011年2月6日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

雪

津村信夫

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/